

「ひきこもり支援の会(仮)」 ※名称はこれから決めます



**日時:**毎月第1火曜日 18時～20時(時間内の出入りは自由です)  
**場所:**特別養護老人ホーム橋の実荘 交流スペース(井口533-20)  
**対象者:**ひきこもり状態の人の家族、支援の中で悩みや不安を抱える教育・医療・福祉関係者、その他関心のある方  
**参加費:**100円(お茶代)  
**お問合せ:**那須塩原市社会福祉協議会 地域支援係 TEL 0287-37-5122

第10回では「生活困窮者が自立した生活を続けるために」というテーマで実施しました。この回では生活困窮者自立支援制度について学び、実際に事業を実施している社会福祉協議会から3つの事例提供があり、それを基に地域でできることについて話し合いました。

その際に参加者から「ひきこもり状態になっている人への支援が必要」との意見が多くありました。まずは現状を知ること・理解することが重要と考え、今年2月に宇都宮市にある「子ども若者・ひきこもり総合相談センター」の中野理事長を講師とし、ひきこもり支援勉強会をどなたでも参加できる形で実施しました。その後は中野理事長と関心のある市民や専門職でどのようなことができるか検討を重ねました。その結果、ひきこもり状態にある人の家族、支援しているが悩みを抱える専門職が集える場所を開くこととなりました。ひきこもりは若者だけでなく、中高年・高齢者の方でも増えてきています。不安の中では、なかなか進むことは難しいですが、多くの人たちが関わることで進むこと・見えてくることもあります。

地域に暮らす人たちはそれぞれに不安や悩みを抱えています。少し話をするだけでも気持ちが楽になるかもしれません。一人では解決が難しくても、支え合える人たちがいれば良い方向に向かっていく可能性は高くなります。

悩みや不安がある方、関心のある方など、お気軽にご参加ください。

今後のにしなすケアネット予定

第19回

第20回

**日時:**令和2年1月23日(木)  
13:30～  
**場所:**国際医療福祉大学病院5階講堂  
**テーマ:**『障害関係』

**日時:**令和2年3月19日(木)  
18:30～  
**場所:**市役所西那須野支所  
**テーマ:**『身元引受人』

〔事務局〕地域包括支援センターとちのみ  
**住所** 〒329-2763 那須塩原市井口533-20  
**電話番号:** 0287-37-1683 FAX: 0287-37-7688



平成29年8月にスタートした、にしなすケアネットも早いもので11月28日に第18回を開催しました。今回は今までの開催実績と、にしなすケアネットから端を発したあるいはヒントを得た活動について紹介していきます。

開催回数	開催日	テーマ	参加人数
第1回	29.8.24	西那須野の歴史・自分の組織・自分の地域で何ができるか?	85
第2回	29.9.28	高齢者と障がい者の二人暮らしの親子が自分らしく生活するためには	76
第3回	29.10.26	障害者制度と高齢者制度の勉強会	59
第4回	29.11.16	若年性認知症の方が地域で暮らすために	67
第5回	29.12.21	気付いていますか? 子どもの貧困	60
第6回	30.1.25	制度のはざまにいる方の退院支援	53
第7回	30.2.22	地域の問題を考える 認知症で困惑する家族の支援	58
第8回	30.3.22	理想の地域社会を目指して	47
第9回	30.5.31	精神障害をお持ちの方が地域で生活するために	85
第10回	30.7.26	生活困窮者が自立した生活を続けるために	66
第11回	30.9.27	医療的ケアを必要とする子供が地域で生活するために	71
第12回	30.11.22	高齢者の運転免許返納問題を考える	45
第13回	31.1.24	在宅看取りの現状を考える	49
第14回	31.3.28	空き家問題を考える	40
第15回	1.5.30	認知症で徘徊をくりかえす高齢者	74
第16回	1.7.25	子どもの貧困 私たちにできること	67
第17回	1.9.30	老老介護	50

にしなす  
ケアネット  
とは?

地域から自治会役員・民生委員・福祉的な活動をしている方、企業、行政、医療・介護・障害・児童分野の事業所等の多種多様な参加者が、事例などを通じて地域課題について話し合ったり勉強会を行ったりする場です。

第8回の「理想の地域社会を目指して」をテーマとした時の意見を基にした、にしなすケアネットの目指すべき地域像です。

- ① 『支え合い』がさかんなまち、にしなす  
老若男女の住民同士の「支え合い」がさかんなまちを目指します!
- ② 『役割』があるまち、にしなす  
住民だれもが「役割」があり、「生きがい」があるまちを目指します!
- ③ 『交流』がさかんなまち、にしなす  
商業、福祉、農業、自治会、医療、教育、行政等、様々な分野を超えた「交流」がさかんなまちを目指します!
- ④ 『にぎわい』があるまち、にしなす  
経済の中心である商業や農業、市民活動等に「にぎわい」のあるまちを目指します!
- ⑤ 『こども』が元気なまち、にしなす  
まちの未来を担う「こども」が元気なまちを目指します!



## 「オレンジドアにしなす」

「オレンジドアにしなす」は、第4回に「認知症の方が地域で暮らすために」というテーマで話した際に、認知症当事者が集まれる場所があると良いといった意見が出ました。そこから関心のある人たちが検討会を行い、誕生したものです。認知症のカラーがオレンジであり、本人や家族が一步踏み出し扉を開けることをイメージして「オレンジドア」と名付けました。認知症と診断された方だけではなく、もの忘れが気になってきた方、その家族の方などが集まっています。専門職もいるので、相談をすることもできます。時には、ボウリングをしたり、調理をしたり、お出かけをすることもあり、参加者のみんなで作っている場所です。



**日時:**毎月第1・第3火曜日  
**場所:**健康長寿センター内 ボランティアセンター(南郷屋5-163)  
**参加費:**200円  
**お問合せ:**那須塩原市社会福祉協議会 地域支援係  
 TEL 0287-37-5122

認知症をネガティブに感じない空間です。お気軽にご連絡、お越しください!!

## (株)テトテ「食とまごころお届けサービス」

一区町にある障害者就労支援施設テトテ那須野が原事業所では今年5月から高齢者宅へお弁当などの食材を配達したり、買い物代行をするサービスを始めました。

地域住民との話から以前より構想はあったようですが、第12回の「高齢者の運転免許返納問題を考える」をテーマとした時に、運転をし続けなければならない理由を知ることが解決につながるのではないかとヒントを得て、一つの大きな理由である「買い物」を支援することを考えたそうです。サービスの内容は下記のとおりです。



**対象者:**西那須野地区在住の買い物にお困りの方  
**内容:**商品リストからご注文いただき、毎週水曜日にお届け  
 その他、1カ所500円での買い物代行  
**お問合せ:**(株)テトテ TEL0287-36-7171

高齢化社会が進めば高齢者を支える人材が不足します。この事業は障がいのある方の力を生かすことにもつながっています。また、商業関係との連携にもなっており地域全体の活性化にもなっています。

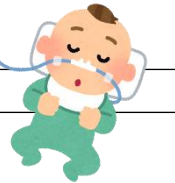
誰もが住みやすいまちになること、誰もが役割を持っていることが、地域共生社会への大きなステップとなっています。

## 「医療的ケアを必要とする子ども・その家族のを知る機会」

第11回では、「医療的ケアを必要とする子どもが地域で生活するために」をテーマとし開催しました。日本の医療技術は非常に高く、新生児医療技術も向上しています。出生時に疾患や障がいがあり、これまでであれば命を落としていた赤ちゃんを救うことができるようになってきています。それによって、人工呼吸器や経管栄養、喀痰吸引などのケアがあれば自宅で生活することができる「医療的ケア児」が増えており、今後もさらに増えることが予想されています。しかし、まだまだ一般的な認知度が低い医療的ケア児のこと、その家族のことを知ってもらうために開催した回でした。

この回では、医療的ケア児の親、それに関わる訪問看護師、医療的ケア児が通う施設の運営者から実情や地域の中でできることについて話を聞きました。医療的ケア児のケアを担っているのは主に母親であり、その負担を軽くしていくためには行政や医療福祉の取組だけでは足りない部分があります。暮らしの中で直接接する機会がある地域の方々を理解してもらうことが大切であることを共通認識しました。子どもへの直接的な支援は難しくとも、家族への支援は誰にでもできることです。

☞ **この回に参加していた方をきっかけに、その後、民生委員・児童委員研修や大学、看護学校などで講演する機会ができました。多くの方に知ってもらうことが医療的ケア児やその家族が暮らしやすい地域づくりへ向けた重要なプロセスになっています。**



## 「子どもや地域の方が集える居場所づくり」

第5回の「気づいていますか?子どもの貧困」、第16回の「子どもの貧困 私たちにできること」として、この2回は貧困をテーマとしました。

第5回はNPO キッズシェルターの森田理事長から関わっている子どもたちの実情について話を聞きました。第16回は市子ども・子育て総合センター、スクールソーシャルワーカー、生活困窮家庭やひとり親家庭の子どもへ学習支援をしている方から話を聞き、2回とも参加者たちが自分たちにできることを話し合いました。

☞ このテーマで実施した後は、「**高齢者施設の地域交流スペースなどを活用した居場所づくり**」「**空き家や自治公民館を活用した居場所づくり**」などに関心のある地域の方やNPOの方などと検討するところまで発展しています。全国的にも子ども食堂や多世代が集える居場所が地域内で増えて来ています。那須塩原市でも子どもだけでなく、多世代が集い交流できる居場所づくりを考えている地域の方と、NPOや企業などが連携することにより実現可能であると検討会を重ねるごとに実感しています。

このような動きが子どもを地域全体で育てることを実現できる地域づくり、老若男女が集い、そこに来れば役割や生きがいを感じられる居場所づくりにつながってきます。

【**関心のある方はご連絡ください**】

那須塩原市社会福祉協議会 地域支援係 TEL 0287-37-5122

